

## 医療情報標準化指針提案申請書(新規)

<b>申請受付番号</b>	HS030-201806	<b>事務局受付日</b>	2018年6月18日	<b>申請日</b>	2018年6月18日
<b>提案申請団体名・責任者名</b>	一般社団法人日本IHE協会 ・代表理事 安藤 裕	<b>規格作成団体名・責任者名</b>	IHE International, Inc, 放射線企画委員会 ・委員長 David Koff, MD		
<b>提案規格案名(版数)</b>	<b>和名</b>	データ入力用書式取得・提出に関する仕様(RFD)			
	<b>英名</b>	Retrieve Form for Data Capture Integration Profile (RFD)			
<b>提案規格案の目的、概要(提案規格案策定経緯及び決定プロセス)</b>	<b>和文</b>	<p><b>目的:</b> データ入力用書式取得・提出に関する仕様(Retrieve Form for Data Capture Integration Profile)は、外部システムの要求に適合する様に、内部システムの使用者が現に使用しているアプリケーションの中でデータを収集する方法を提供する。RFDはソースからの入力用書式を取り寄せ、表示し、入力を完成させ、データを提出する。疾病登録などのナショナルデータベースの作成効率を向上させ、医療や公衆衛生の質の向上に寄与することを目的とする。本仕様はすでに確定し広く使用されている国際標準に基づいており、医療機関間での情報の相互運用性を確保することを目指している。</p> <p><b>策定経緯及び決定プロセス:</b> 統合プロファイルはIHE International, Inc.における討議で、定期的に見直され、必要な訂正を行い、毎年改定要望を受けつけ討議し、コネクタソンと称する接続試験をへて確定されている。IHE International, Inc.は、IT専門家、医療機関のIT部門職員、IT機器メーカーの技術者などが参加する、企業から独立した組織である。北米放射線学会、米国病院情報システム管理学会が主スポンサである。本提案はIHE International, Incが作成した仕様を、日本IHE協会のIT委員会、運営委員会、理事会にて討議し作成され、IHE協会員にパブリックコメントをもとめ、必要に応じてコメント内容を反映して確定される。</p>			
	<b>英文</b>	<p><b>Purpose:</b> The Retrieve Form for Data Capture integration profile (RFD) aims to provide infrastructure for data retrieval from medical facilities in order to construct national data base of diseases, treatment, imaging studeis, etc. RFD provides a method for gathering data within a user's current application to meet the requirements of an external system. RFD supports the retrieval of a form from a form source, display and completion of the form, and return of instance data from the display application to the source application.</p> <p><b>Development &amp; Maintenance:</b>The IHE integration profile is maintained and created by IHE Internationl, Inc. through rigorously defined processes including network connectivity testing called "Connectathon". This proposal is based on ITI Technical Framework Ver 14 and is approved by the IHE-Japan IT committee, managment committee and board of directors.</p>			
<p><b>提案規格案の申請理由、適用領域、使用方法</b></p> <p>(1)申請理由: a) データベース構築等を目的としたデータ収集において、データ記入用紙の配布・記入・提出・訂正と補遺の通信に使用できる標準的な基盤の必要性が、医療ナショナルデータベース構築が大きな課題とされる今日、増しているため。たとえば、総務省は「クラウド型EHR高度化補助事業」を展開し、厚労省は「全国医療情報ネットワーク」構想を策定して医療ビッグデータの作成と利用を促進している。これを可能とすべく、次世代医療基盤法も制定された。本規格RFDはこのような要望や方策に応える、標準的な基盤として使用可能な規格である。いわば、時代のニーズに応える規格であり早急に普及させる意義が高い。b) RFDを用いることにより、データ収集側とデータ提出側の両者が、これを行う情報システムの作成、維持・管理の効率を改善できると想定される。c) わが国でのRFD実装例があるため。d) 使用されている標準規格はインターネットでの通信に広く用いられており、実装に困難は予想されない。e) 標準が定められない状態でRFD機能が多種の方法で実現されると非効率なシステムが招来される恐れがある。</p> <p>(2)適用領域: 医療機関からデータを集め、記録、分析し、医療や公衆衛生の向上を目的とする情報システムを対象とする。用紙を要求し、入力した用紙を提出し、データの訂正や追補を可能とする機能を持つ。感染症法に基づく届出、改正薬事法に基づく副作用報告、地域・全国がん登録、疾患別の登録事業などでの利用、などを想定している。個々のデータ提出側医療機関内部でのデータの入力方法(自動または手動など)は本規格の対象外である。</p> <p>(3)使用方法: データ収集機関とこれに協力するデータ提供機関の間の通信をおこなうシステムに組み込んで使用する。データ提供機関には電子カルテなどの、診療情報を扱うデータベースシステムが必要である。</p>					
<b>提案規格案の関連情報</b>	<b>メンテナンスの方法(バージョン管理も含む)</b> IHE Internationl Incおよび日本IHE協会ITI委員会				
	<b>入手資格</b> 制限無し				
	<b>入手方法</b> 日本IHE協会ホームページより入手可能。 <a href="http://www.ihe-j.org/file2/docs/RFD/IHE-J_ITI_RFD_V2.3.pdf">http://www.ihe-j.org/file2/docs/RFD/IHE-J_ITI_RFD_V2.3.pdf</a> 原語の英文は、 <a href="http://www.ihe.net/Technical_Frameworks/#IT">http://www.ihe.net/Technical_Frameworks/#IT</a>				

	有効期限 特になし。
	価格等 無償
	知的所有権 著作権は、日本IHE協会およびIHE International Incが所有している。ただし、無償使用可能。
	添付資料 IHE ITI Technical Framework Rev. 14, 2017 下記より入手可能 <a href="http://www.ihe-j.org/docs/">http://www.ihe-j.org/docs/</a>
実務運用上の連絡者	・氏名 遠藤史朗 ・TEL 03-5840-9878 ・FAX 03-5840-9879 ・E-mail endou@ihe-j.org

特記事項	特になし。
------	-------

※更新・追加・廃止の時は、以下の一項を選択し、旧規格名(和名)を記載する。	
指針の更新・改廃の場合の旧規格との関係	<input type="checkbox"/> 旧規格( )を新規格に更新する。 <input type="checkbox"/> 旧規格( )と新規格が追加で指針となる。 <input type="checkbox"/> 旧規格( )を廃止する。
更新時の新旧の相違点	※バックワードコンパティビリティについても記入してください。

※申請した指針は、毎年5月末までに見直しをお願いします。  
 事務局から問い合わせが行きますので、必要に応じて更新などの手続きをお願いします。

(2009.05.19 改版)